

平成 29 年第 9 回浅口市教育委員会議事録

1. 招集日時 平成 29 年 7 月 20 日 (木)
2. 場 所 寄島公民館第 2 会議室
3. 開 会 午後 2 時 00 分
4. 閉 会 午後 3 時 10 分
5. 出席者 中野留美 中務美保子 原田玲子 藤澤弘幸 佐藤賢次

6. 説明のために出席した者の氏名

教育次長	櫛田忠	教育総務課長	難波勝敏
学校教育課長	原田英明	こども未来課長	石田康雄
文化振興課長	小山朋子	生涯学習課長	清水真
寄島分室長	田中太志	学校給食センター所長	山本峯廣
教育総務課	山崎友紀 (事務局)		

7. 傍聴人 なし

8. 議 事

日程 1 議事録署名委員について  
浅口市教育委員会議規則第 29 条により藤澤委員を指名。  
(了承)

日程 2 会期について  
本日 7 月 20 日の 1 日会期  
(承認)

日程 3 議案第 36 号 特別な教科道徳教科用図書の採択について  
(教育長)  
資料により説明。

7 月 18 日に倉敷地区教科用図書採択市町教育委員会協議会

に出席し、平成 30 年度使用小学校「特別の教科 道徳」教科用図書選定経緯の報告及び答申を受けた。これを受け、市教育委員会として協議会と同一の教科書を採択するか、協議する必要がある。

選定委員会意見として、東書は「使用に極めて適している」、日文は「よく適している」、他 6 社は「適している」と意見を受けた。日文は、大変丁寧で細かい内容、分冊ノートがついているという特徴がある。東書は、考え議論する道徳への配慮が顕著である、自由度がある、幼小の連携・小中の連携が図られているという特徴がある。そして、最終的には協議会では東書を選定した。

(教育委員)

教育長とともに協議会に出席した。この選定委員会意見一覧には掲載されていないが、一般の方にも意見を募り、現場の教員も含めたくさんの意見をいただいたと聞く。日文はきめ細やかだが、それにとらわれすぎる恐れがある。東書は教員の裁量に任せられる自由度があり、これからの道徳に求められる「考え、議論する道徳」についても配慮されている点が評価されていた。

(教育委員)

文科省から「考え、議論する道徳」という新しい理念が示されており、東書はその理念に配慮されていると選定理由にある。今までの道徳の在り方を変え、より生徒に考えさせるといった観点が示されている教材になっているようなので、よいように思う。

(教育長)

一般の方から 242 件程度ご意見をいただき、その中で浅口市からは 77 件のご意見をいただいた。多くの意見をいただき、とてもよかったと思う。

東書の道徳の教科書の最初の方に「道徳の学習を進めるために」という使い方の説明のページがある。「1 気づく、2 考える・話し合う、3 振り返る・見つめる、4 生かす」というポイントが最初に明確に表されており、こういった点も良いところだと考える。また、題材の最後のページに中心発問が 1 問、振り返り生かすための発問が 1 問、発問は合計 2 問に絞っている点も議論を深める際に良いと考える。

これで進めてよろしいか。

(全委員)

承認する。

(教育長)

では、浅口市は、倉敷地区教科用図書採択市町村教育委員会協議会と同一の教科書を採択することに決する。

(承認)

日程 4 諸般の報告について

(学校教育課長)

「県学力・学習状況調査」結果の概要について、資料により説明。

(教育委員)

調査対象は公立学校の子どもだけか。私立に進学した子どもは受けているのか。

(学校教育課長)

進学した私立学校が受けていれば、そこで受けることになる。

(教育委員)

市として目標値を定めているのか。

(教育長)

全国値を上回ることを目標にはしている。調査結果を見ればわかるが全国値の方が高い。ただ、中学1年生以外の学年は今年初めて県調査を行うこともあり、この調査結果をどう読み取るかが難しい。今後4・5年生がどのくらい伸びるか、伸びを見ていくこともポイントとなる。

(教育委員)

岡山県は公立小中学校全て受験しているので、県との差は確実な値と言えらると思う。英語の値が低いのが気になるが。

(教育長)

今回の英語の調査では、「聞く・話す」といった値が測れていないというのも理由の一つかもしれない。

(教育委員)

問題の傾向は、全国学力テストと一緒か。

(学校教育課長)

問題の傾向が違う。この調査は全体的な学力をみる問題、基礎基本の定着をみる問題となっており、全国調査は苦手な分野の学力をみる問題という傾向にある。

(教育委員)

初めて調査を受ける子どもたちは、非常に戸惑ったと思う。復習を今後していくと思うが、問題慣れしていかないと数値が出ないと思う。復習をしっかりしてもらいたい。

(学校教育課長)

この調査を行った東京書籍のWEB上で子ども一人ひとりの苦手な点を確認することができ、またその苦手分野を強化するための問題が作成されるというサービスがある。その活用を学校に促していく予定。

(教育委員)

それは、その子の苦手分野を効率よく補強できて良い。

(教育長)

校長会でも、各学校・各学年を分析するとともに、個の力に反映して欲しいと依頼している。

(教育次長)

いかにデータを活用するかが大切だと考える。

(教育委員)

子どもが調査結果の個票を持って帰るが、それを家で分析し活用するのはとても難しい。

(教育委員)

保護者の方はそれを見ただけでは難しいと思うので、先ほど話に出たような個別の問題表が作成されるのがとても良いと思う。

(教育長)

この結果に一喜一憂せずに、当たり前前の方が当たり前前ができるように基礎基本を大切にしていきたい。

(学校教育課長)

浅口市自閉症・情緒障害通級指導教室の開設に向けて、資料により説明。

(教育委員)

通級教室へは、授業中に行くのか、放課後に行くのか。

(学校教育課長)

授業中に行く子どももいれば、放課後に行く子どももいる。低学年の場合、放課後の時間の方が長いため放課後に行くことが多い。

(教育次長)

この問題は今まで危機感を抱いてきた問題であったが、特別支援学級へ入ることが難しくても通級指導教室であれば通いやすいという意見もあり、開設に向けて動き出した。

今後予算措置を9月議会に諮り、県教委に教員の加配について要望していくためにも、ニーズを把握しておく必要がある。

(教育委員)

通級指導という言葉は、保護者に定着しているだろうか。

(教育長)

金光小学校のことばの教室に携わったことがある方へは、定着しているかもしれないが一般的にはまだまだかもしれない。

(教育次長)

保護者の方と丁寧に話し合いをしながら案内をする。

(こども未来課長)

市内保育園研修について、説明。

市内小学校教員によるこども園見学について、説明。

(文化振興課長)

平成27年度竹林寺天文台遺跡調査の報告書について、説明。

金光教の教徒社（東棟、中央棟、西棟）の国登録有形文化財答申について、説明。

金光の吉備神楽社の公益財団法人マルセンスポーツ・文化財団マルセン文化賞受賞について、説明。

(生涯学習課長)

夏 GAKU サプリについて、説明。

(学校給食センター所長)

1学期の給食終了について、2学期の給食開始日について説明。

日程 10 その他について

次回教育員会議

平成 29 年 8 月 21 日 (月) 13 時 30 分～

平成 29 年 8 月 21 日

浅口市教育委員会

教 育 長 中 野 留 美

委 員 藤 澤 弘 幸

作 成 職 員 山 崎 友 紀